



第 37 回 例会 報告 (5月11日)

【 出 席 報 告 】

・会員数 53名

・出席数 35名

・欠席数 18名

・当日出席率 66.66%

・前々回修正出席率 100%

<欠席会員>阿部、平田、板脇、木村、河野、桑森、眞鍋、村上(裕)、中村、大澤、岡本、大河内、坂本、竹田、田崎、山本、
〔免除会員〕青野(明)、檜垣(巧)

<4/20 欠席補填>(4/15 地区大会)岩藤、木村、近藤、吉田 (4/16 地区大会)久米、岡本 (4/26 高松南)檜垣(俊)
(5/1 今治北)原、平田、板脇、吉良、桑森、村上(修)、村上(裕)、中村、田中、竹田

◇**会長報告** ・本日はテクスポート今治を訪問します。テクスポート今治は今治タオル工業組合が今治市や愛媛県、地元金融機関などと運営している第3セクター、株式会社今治繊維リソースセンターが管理しており、本日は今治タオル工業組合理事長兼株式会社今治繊維リソースセンター代表取締役社長の近藤聖司さまに卓話をお願いしました。今治 RC の大先輩である近藤憲司氏のご子息、今治南 RC の近藤寛司会員の弟さんにあたる、コンテックス株式会社の代表取締役社長です。

◇**幹事報告** ・高木眼科さまより開院記念のコスモスの種をいただきましたので皆さまにお配りします。

職場訪問例会 ～テクスポート今治～

◆**田中会員挨拶**:近藤聖司理事長のもとには全国から講演依頼が殺到しており、今治タオルブランドについて学びたいと海外からもたくさんの視察団が訪れています。卓話終了後には4月27日にリニューアルしたばかりの今治タオル本店と展示施設「今治タオル LAB(ラボ)」を見学します。

◆**今治タオル工業組合 近藤聖司理事長『今治タオルプロジェクトについて』**:1952(昭和27)年、タオル織機を管理する団体として中四国タオル調整組合が生まれます。当時は閻織機を排除するために機械は登録制でした。それが1958

(昭和33)年に四国タオル工業組合に改組、そして本年1月に今治タオル工業組合へと変遷しています。▼バブル絶頂期の1990(平成2)年ごろからタオル生産に陰りが見え始めました。海外に生産拠点を移す企業が増えたのが一因です。15年ほど前に機械の登録制がなくなると組合の求心力が低下し、産地も疲弊していきます。1976(昭和51)年に500社あったのが当時すでに350社、毎月赤字でどこかが倒産していくという状況でした。ちなみに現在は109社にまで減っています。このままではだめだと2001(平成13)年、海外産タオルに関税を掛けて輸入量を減らそうと動きましたが叶いません。その代わりにもらった補助金でデザイナーの佐藤可士和さんのもと、2006(平成18)年からブランド化を図るべく今治タオルプロジェクトを開始しました。▼最も厳しかった2006年に12,500トンだった生産量は現在13,000トン、ほとんど変わりません。全国の流通量に占める今治タオルの割合も9.8%だったのが12%へと向上しましたが、現在も海外製品の占有率は78%に上ります。数字だけを見れば微増ですが、売り上げが変わりました。250億円だったものが現在は400億円。ブランド化によって最も変わったのは今治タオルの産業自体の価値であり、これにより海外の商品との線引きができたのです。▼今までは積極的に外へ出てPRをし、商売していました。しかし今治でPRする、お客さまに今治へ来ていただくというのが理想です。そこで今治に風が吹いている好機を逃さないよう、今治タオル本店をリニューアルしました。幸いなことにこのGWにはテクスポートに県外ナンバーの車が押し寄せ、360万円余りの売り上げがありました。ここをピークとするのではなく、継続していかなければブランドとしての価値は低下します。タオルだけのコンテンツではなく今治全体をどうブランド化するか、それがこれからの課題です。



次回例会(5月18日)

【 新会員卓話 】

<会員誕生日祝> 西信 正男氏 (5/21)

<配偶者誕生日祝> 松木 徹夫氏 (5/23)

<入会記念日祝> 田中 良史氏 (5/22)

〔 健寿司 〕